

令和4年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験や観察を多く取り入れ、結果を見つけることができた。
- ・基礎知識の定着を図り、それを活用した考察に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・実験や観察を多く取り入れたが、既習事項とのつながりを持つことができなかった。
- ・考察の内容がまだまだ不足している。
- ・各領域についての既習事項の振り返りを行ったが、思うように定着しなかった。今後は重要語句に内容を絞るなどの工夫が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	目標値とほぼ同程度。		
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を下回っている。	目標値を下回っている。 (第2学年時)	目標値を下回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎の問題が目標値以上の項目が多い。 それに対し、応用の問題が目標値を下回っている。	応用の問題が目標値を下回っていることから、実験・観察の結果から、考察することが不足していると考えられる。	基礎の問題が目標値を上回っていることから、主体的に取り組む姿勢は身についているものと考えられる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎の問題が目標値以上の項目が多い。 それに対し、活用の問題が目標値を下回っている。	目標値を下回っている項目が多い。実験・観察の結果から、考察する力が弱いと考えられる。	基礎の問題が目標値を上回っている項目が多い。主体的に取り組む姿勢は身についているものと考えられる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
活用の問題で、目標値に近い数字が出ている。 それに対し、基礎の問題で目標値を下回っている。	実験・観察の結果から考察をしていく力が弱いと考えられる。	基礎の問題で目標値を下回っていることから、理科に対する興味を引き出すための工夫が必要と考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験・観察を積極的に行い実験・観察の技能の習得に努める。	科学的な思考力・判断力・表現力を高めるため、知識の習得を行いながら、実験・観察の結果から考察する力、科学的思考力、表現力を育てていく。	小学校での既習事項を確認しながら、重要語句などを丁寧に教えていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験・観察を積極的に行い、実験・観察の技能の習得により一層努める。	実験・観察を行い、その結果から考察する力、科学的表現力の育成に重点を置く。	実験・観察を行い、基礎・基本を重視した授業を展開していく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項を定期的にくり返し、問題を解かせることで、定着を図る。	実験・観察に取り組み、結果に基づく考察を自分自身で考え、書くことを実践させる。	様々な理科に関する事象を紹介し、今までの既習事項と結びつける。また、実験・観察を多く取り入れた授業を展開する。